

## SRC 自主調査の調査結果について

 新型コロナウイルスへの不安等に関する国際比較調査  
 (日本、中国、台湾、ベトナム)

## ■趣旨

- わが国では、2020年5月25日に新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が解除され、終息の傾向がみられたものの、依然として感染者数が激しい推移を見せている。
- 一方で海外の状況を見ると、拡大傾向にある国と、ピークアウトした国など、その推移はさまざまである。これは、感染防止に向けた政策だけでなく、社会の状況や医療、経済の状況など様々な要因によるものと考えられる。
- そこで、サーベイリサーチセンターでは、インターネットリサーチモニターに対する自主調査研究として『新型コロナウイルスへの不安等に関する国際比較調査』を実施しました。今回は、**2020年6月3日(水)**に実施した調査の結果について公表します。

## ■実施体制

- 調査主体 株式会社サーベイリサーチセンター (<https://www.surece.co.jp/contact/>)  
SRC情報総研
- 協力 GMOリサーチ株式会社 (<https://gmo-research.jp/>)

## ■調査概要

- 調査概要は以下の通りです。

●調査地域	日本 (これまで当社で実施した調査から引用)	中国、台湾、ベトナム
●調査方法	インターネット調査 (インターネットリサーチモニターに対するクローズド調査)	インターネット調査 (GMOリサーチ株式会社「ASIA Cloud Panel」のモニターに対するクローズド調査)
●調査対象	20歳以上男女モニター	全体
●有効回答	全国47都道府県 各100サンプル割付回収 (全4700サンプル回収)	中国 406サンプル 台湾 477サンプル ベトナム417サンプル
●調査内容	基本属性/感染不安/不安の要因/感染防止に気を付けていること/収入への影響/買い物への影響/ など	
●調査期間	2020年(令和2年)5月29日(金) 配信開始~6月2日(火) 調査終了	2020年(令和2年)6月3日(水) 配信開始~同日調査終了
●資料の見方	nと表記がある数値は、構成比(%)算出の基数(調査数)である 構成比(%)は、小数点第二位を四捨五入しており、合計が100.0にならない場合がある M.A.と表記がある設問は、多肢式(複数回答可)のため、合計は100%以上となる	
●サンプル構成	国間比較が可能なように、性年代別に同数になるようにウェイトバック処理を行っている	

## ■調査結果概要

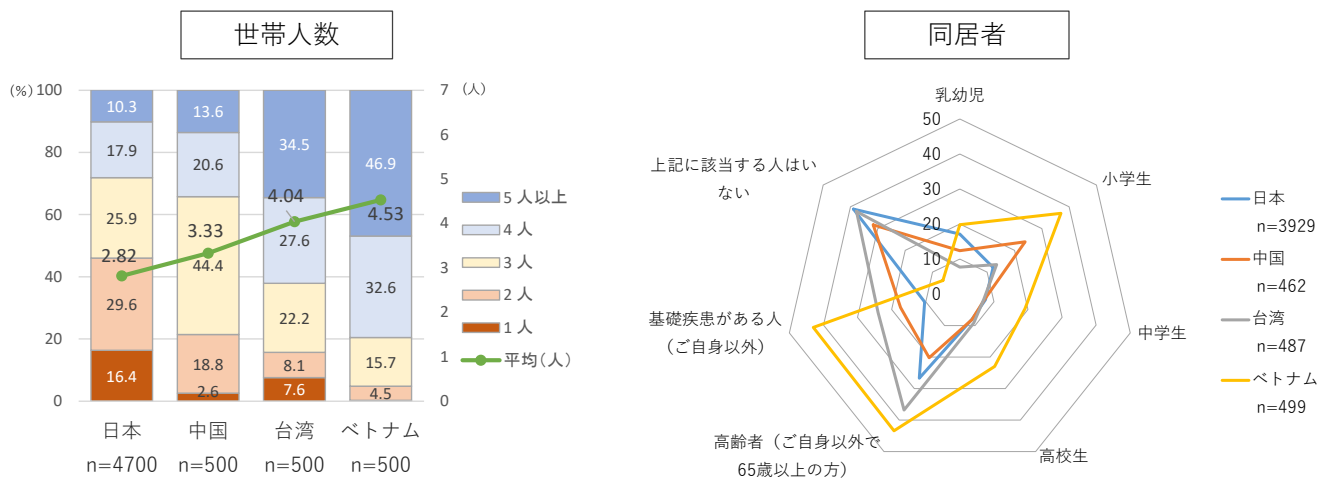
- 本件に関するお問合せ先 株式会社サーベイリサーチセンター <https://www.surece.co.jp/>
- 広報担当: 松下 正人 E-mail: [src\\_support@surece.co.jp](mailto:src_support@surece.co.jp)  
品質部 TEL: 03-3802-6779 FAX: 03-3802-6729
- 調査担当: 営業企画本部 柘植 航大 [tsuge\\_ko@surece.co.jp](mailto:tsuge_ko@surece.co.jp)  
TEL: 03-3802-6727 FAX: 03-3802-7321
- 調査結果の引用にあたっては、調査主体名として「株式会社サーベイリサーチセンター」を必ず明記して利用してください。
- 調査結果の無断転載・複製を禁じます。
- 本紙に記載している情報は、発表日時点のものです。

## サマリー

## 各国の家庭環境

- 世帯の人数は、**日本が最も少なく、平均2.8人**。単身世帯は16.4%、2人世帯は29.6%となっており、今回の調査対象の国では最も核家族が多いと推察する。
- **同居者人数が2人以下の割合は、日本46.0%、中国21.4%、台湾15.7%、ベトナム4.8%**となっている。
- 日本より**台湾、ベトナムの方が高齢者同居率が高く、ベトナムは基礎疾患を持つ家族の同居率も高い**。

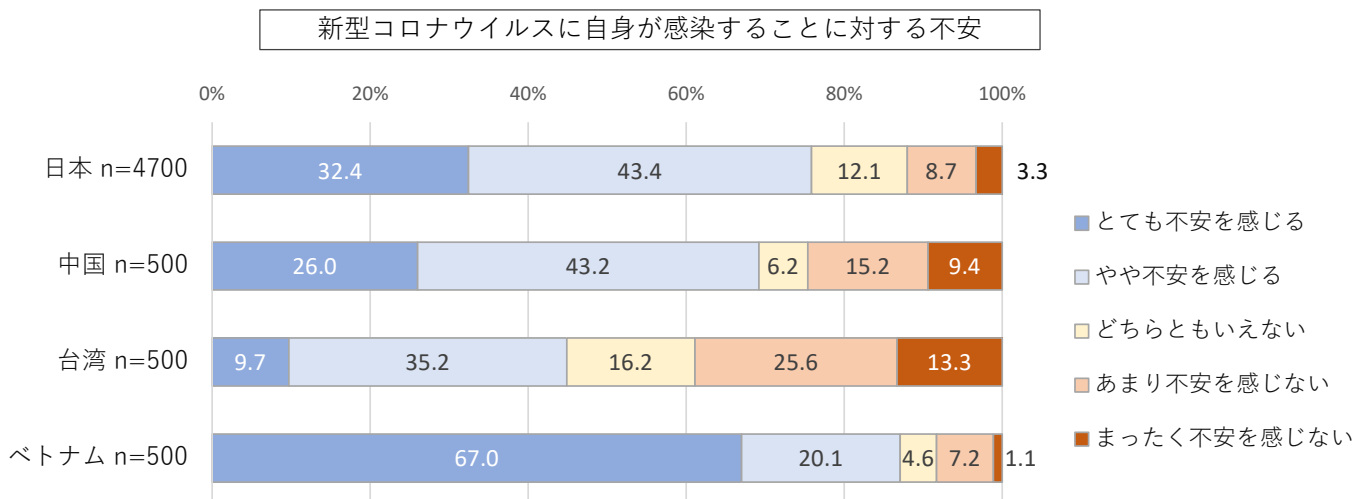
【考察】ベトナムは、1975年に終結したとされる第二次インドシナ戦争や、その後に生じたカンボジア内戦や中越戦争などにより、医療体制や保険制度が確立するまでに時間がかかり、現在の50代以上の健康状態が芳しくないという通説がある。



## 新型コロナウイルスに対する不安

- 自分自身が新型コロナウイルスに感染することに対する不安についてみると、**ベトナムでは「とても不安を感じる」の回答割合が67.0%と著しく高い**。
- 一方で、**日本は32.4%、中国は26.0%**となっており、**台湾は9.7%**と比較的低くなっている。

【考察】各国の国民の不安感は「政府や公共機関のコロナ対策状況」や「自国民の気質や国民性に対する懸念」等の影響だけではなく、新型コロナウイルスに感染した場合の重篤化率が高いとされる基礎疾患患者との同居率や、国別の医療体制（質とキャパシティ）の影響も大きいことも考慮する必要があると考えられる。そのため、一概に比較はできないが、それらすべてを踏まえた上で、ベトナムにおいては不安に思う人が極めて多いといえる。



## サマリー

## 何が不安か

- 新型コロナウイルス感染症を知ってから、不安を感じていることでは、「効果的な治療薬やワクチンがないこと」がいずれの国でも約5～6割となっており、共通している。
- 日本、中国、台湾では、それに次いで「ウイルスが目に見えないものであること」や「いつまで続くのか、見通しがわからないこと」の回答が多い。
- ベトナムは、「自国でも、感染者の爆発的な増加が起こり得ること」の回答が他の国に比べ著しく多く、「子どもの学習の遅れや進級・進学などへの影響」も比較的多くなっている。

【考察】4か国すべてで「治療薬やワクチンがないこと」に懸念を抱いている。ベトナムのみ回答傾向がやや異なり、「感染者の爆発的な増加」や「子供の学習」に懸念している人が多いのが特徴となっている。

新型コロナウイルス感染症を知ってから感じている不安 国別ランキング（上位10位抜粋）

	日本 n=4700	中国 n=500	台湾 n=500	ベトナム n=500
1位	効果的な治療薬やワクチンがないこと 53.3%	効果的な治療薬やワクチンがないこと 59.0%	効果的な治療薬やワクチンがないこと 63.1%	効果的な治療薬やワクチンがないこと 69.3%
2位	ウイルスが目に見えないものであること 49.0%	ウイルスが目に見えないものであること 42.7%	いつまで続くのか、見通しがわからないこと 57.6%	自国でも、感染者の爆発的な増加が起こり得ること 68.5%
3位	いつまで続くのか、見通しがわからないこと 48.8%	いつまで続くのか、見通しがわからないこと 40.0%	ウイルスが目に見えないものであること 39.1%	いつまで続くのか、見通しがわからないこと 60.4%
4位	収入が減少すること 38.4%	収入が減少すること 35.1%	世界的な経済活動の停滞や、株価の急落などにより不況におちいること 30.9%	収入が減少すること 54.8%
5位	感染者の減少から、再び感染拡大に向かうこと 38.3%	感染拡大で都市の封鎖などの緊急事態が起こり得ること 34.6%	収入が減少すること 25.3%	持病や風邪などで、病院に行きたくても感染への不安を感じることに 54.4%
6位	自国でも、感染者の爆発的な増加が起こり得ること 36.9%	持病や風邪などで、病院に行きたくても感染への不安を感じることに 28.6%	人々が自分勝手な行動を始めて、社会の秩序が保てなくなることに 18.6%	子どもの学習の遅れや進級・進学などへの影響 47.7%
7位	感染者が増えて病院などが対応能力を超えてしまうこと 36.3%	世界的な経済活動の停滞や、株価の急落などにより不況におちいることに 28.1%	企業などの収益が悪化すること 18.0%	企業などの求人や採用計画が減少すること 42.9%
8位	自分が感染したら、人から批判や差別をうけるかもしれないこと 35.7%	自国でも、感染者の爆発的な増加が起こり得ること 26.3%	持病や風邪などで、病院に行きたくても感染への不安を感じることに 17.0%	世界的な経済活動の停滞や、株価の急落などにより不況におちいることに 42.8%
9位	世界的な経済活動の停滞や、株価の急落などにより不況におちいることに 34.8%	感染者が増えて病院などが対応能力を超えてしまうこと 24.0%	仕事の抑制や解雇・雇止めを受けると 16.9%	ウイルスが目に見えないものであること 39.3%
10位	企業などの収益が悪化すること 34.3%	生活の変化による心身の健康の悪化 23.1%	感染者の減少から、再び感染拡大に向かうことに 16.2%	感染者が増えて病院などが対応能力を超えてしまうことに 39.1%

※いずれかの国で上位3位となった項目に網掛け

## サマリー

## 各国の感染が拡大するのを防止する行動の内容

- 感染拡大防止行動については、いずれの国も「人が密集するような場所へ行くことを避ける」の回答が約8～9割と最も多く、日本以外は「人と接触する場合は、距離をとる」の回答も多い。
- 日本においては、「人と接触する場合は、距離をとる」の回答がやや少ない。

【考察】「密となる空間や食事会・飲み会等に向かない」という意識は4か国で同程度となっているが、日本は「人と接触する際に距離をとる（ソーシャルディスタンス）」を意識している人が他の国に比べ20～30%程度、回答割合が低い。

総じて、選択割合は台湾、日本がやや低く、反対にベトナムはいずれの項目も回答が多くなっており、不安感も強く、感染拡大防止の意識も高く、行動も伴っており、自己で防衛する意識が高い可能性がある。

感染拡大防止行動 国別ランキング（上位10位抜粋）

	日本 n=4700	中国 n=500	台湾 n=500	ベトナム n=500
1位	人が密集するような場所へ行くことを避ける 80.6%	人が密集するような場所へ行くことを避ける 89.7%	人が密集するような場所へ行くことを避ける 83.8%	人が密集するような場所へ行くことを避ける 93.3%
2位	食事会や飲み会などに行かない 52.7%	人と接触する場合は、距離をとる 74.5%	人と接触する場合は、距離をとる 66.2%	人と接触する場合は、距離をとる 86.4%
3位	必要以上に買いだめしたり、多くの店で買い漁ったりしない 49.2%	食事会や飲み会などに行かない 64.5%	必要以上に診療所や病院に行かない 53.0%	ドライブや観光などに行かない 70.5%
4位	うわさや伝聞にまどわされないようにする 46.8%	ショッピングセンターやショッピング街などに行かない 60.6%	ニュースや解説などの情報は、自分が信頼できる情報源を選ぶ 37.3%	食料品など日常の買い物の回数を減らす 66.1%
5位	人と接触する場合は、距離をとる 44.0%	知人や友人の家を訪問しない 60.0%	うわさや伝聞にまどわされないようにする 34.2%	ニュースや解説などの情報は、自分が信頼できる情報源を選ぶ 61.6%
6位	ニュースや解説などの情報は、自分が信頼できる情報源を選ぶ 41.6%	食料品など日常の買い物の回数を減らす 55.2%	食事会や飲み会などに行かない 32.3%	必要以上に診療所や病院に行かない 58.0%
7位	ショッピングセンターやショッピング街などに行かない 41.4%	スポーツジムやフィットネスなどに行かない 52.6%	感染症検査の趣旨や手続きを理解して対応する 27.4%	うわさや伝聞にまどわされないようにする 56.1%
8位	必要以上に診療所や病院に行かない 40.6%	必要以上に診療所や病院に行かない 47.3%	食料品など日常の買い物の回数を減らす 24.6%	仕事の仕方を変えて、外出や出張を減らす 53.5%
9位	ドライブや観光などに行かない 38.2%	仕事の仕方を変えて、外出や出張を減らす 46.2%	必要以上に買いだめしたり、多くの店で買い漁ったりしない 24.5%	スポーツジムやフィットネスなどに行かない 52.7%
10位	知人や友人の家を訪問しない 36.1%	ドライブや観光などに行かない 46.1%	仕事の仕方を変えて、外出や出張を減らす 24.3%	微熱があったり、体調不良の際は会社を休む・外出をしない 51.7%

※いずれかの国で上位3位となった項目に網掛け

## 調査結果概要

- 各項目の結果の概要は以下の通り。

【総括】 ベトナムは不安に感じている人が多く、台湾は少ない。

ベトナムは同居者人数も基礎疾患罹患率も、基礎疾患同居者も多い。

防疫行動・感染拡大防止行動ともに、日本と台湾の回答割合は比較的低く、ベトナムは高い。

コロナ以前と比較した収入は、日本、中国、台湾は約8割（2割減）、ベトナムは6.7割（3.3割減）となっている。

### 世帯人数

- 3人以上の世帯は、日本は54.1%、中国は78.6%、台湾は84.3%、ベトナムは95.2%となっている。

### 世帯構成

- 日本と台湾は高齢者（65歳以上）、中国は小学生、ベトナムは小学生と高齢者との同居比率が高い。

### 基礎疾患

- 基礎疾患がある人の比率は、日本・台湾は17%台、中国は24.3%、ベトナムは54.3%となっている。

### 感染への不安

- 新型コロナウイルスに感染することに対する不安（とても不安を感じる）は日本が32.4%となっている。それに対し、台湾が9.7%、中国は26.0%と比較的低くなっている。
- 一方でベトナムは67.0%と、不安に思う人が非常に多くなっている。

### 感染への不安

- いずれの国も、「効果的な治療薬やワクチンがないこと」に不安を感じている人が最も多い。
- 日本、中国、台湾は、「ウイルスが目に見えないものであること」の回答割合が高いが、ベトナムはそれに代わり「感染者の爆発的な増加が起こり得ること」に対する不安が高くなっている。

### 防疫行動

- 「手洗いやアルコール消毒」が9割前後となっている。
- 台湾は「屋内の換気」「うがい」「同居者のタオル類の使い分け」の回答割合が低い。
- 多くの選択肢において、中国、ベトナムの回答割合が高く、日本と台湾はやや低い傾向がみられる。

### 感染拡大防止の行動

- 4か国とも、「人が密集するような場所へ行くことを避ける」の回答割合が最も高い。
- 日本は、多くの項目で選択比率がやや少なく、ベトナムは選択項目が多くなっている。

### 収入の変化

- 新型コロナウイルス感染症への対応が必要となる前を100%とした際の収入の比率では、日本は「変わらない」が54.7%、台湾が47.6%、中国が34.0%、ベトナムが19.3%となっている。
- ベトナムは収入が減った人が多い。
- 平均では日本・中国がともに8.4割、台湾が8.1割と、概ね2割の収入源となっているが、ベトナムは6.7割と、3割以上の収入源となっている。

### 収入の変化

- 日本は「食料品・飲料」34.6%と「日用品」28.6%が多くなっている。
- 中国では「日用品」が68.0%と最も多く、次いで「医薬品・通院費」が39.4%となっている。
- ベトナムでは「日用品」が71.7%と最も多く、次いで「出前」が62.5%となっている。

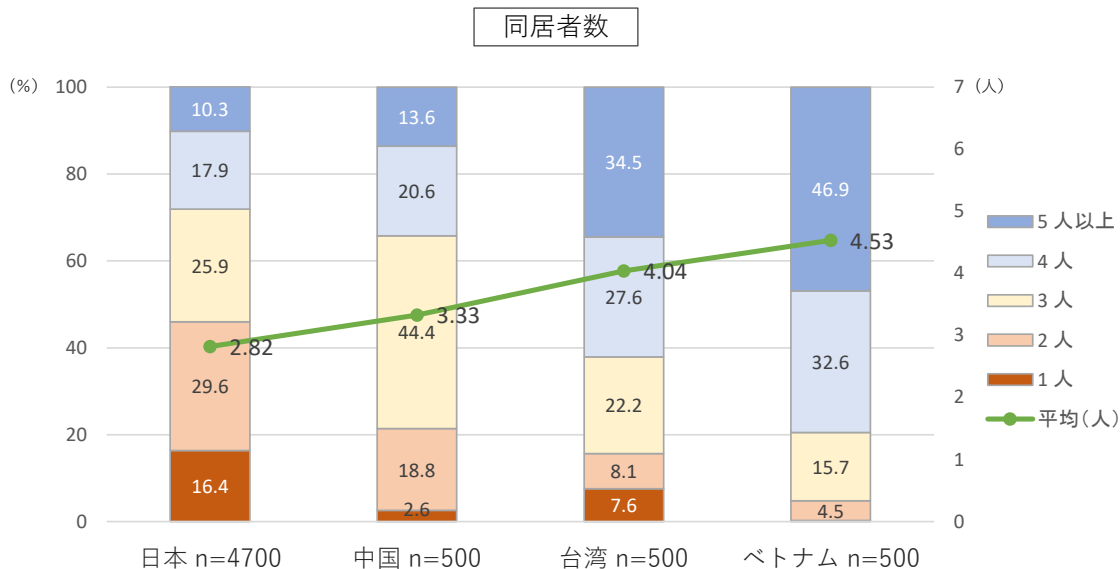
# 調査結果 詳細

## 世帯人数

自分を含めた同居者数の平均は、日本は2.8人、中国は3.3人、台湾は4.0人、ベトナムは4.5人となっている。

3人以上の世帯は、日本は54.1%、中国は78.6%、台湾は84.3%、ベトナムは95.2%となっている。

設問：ご自宅では、何人で暮らされていますか（ご自身を含む人数でお答えください）



## 世帯構成

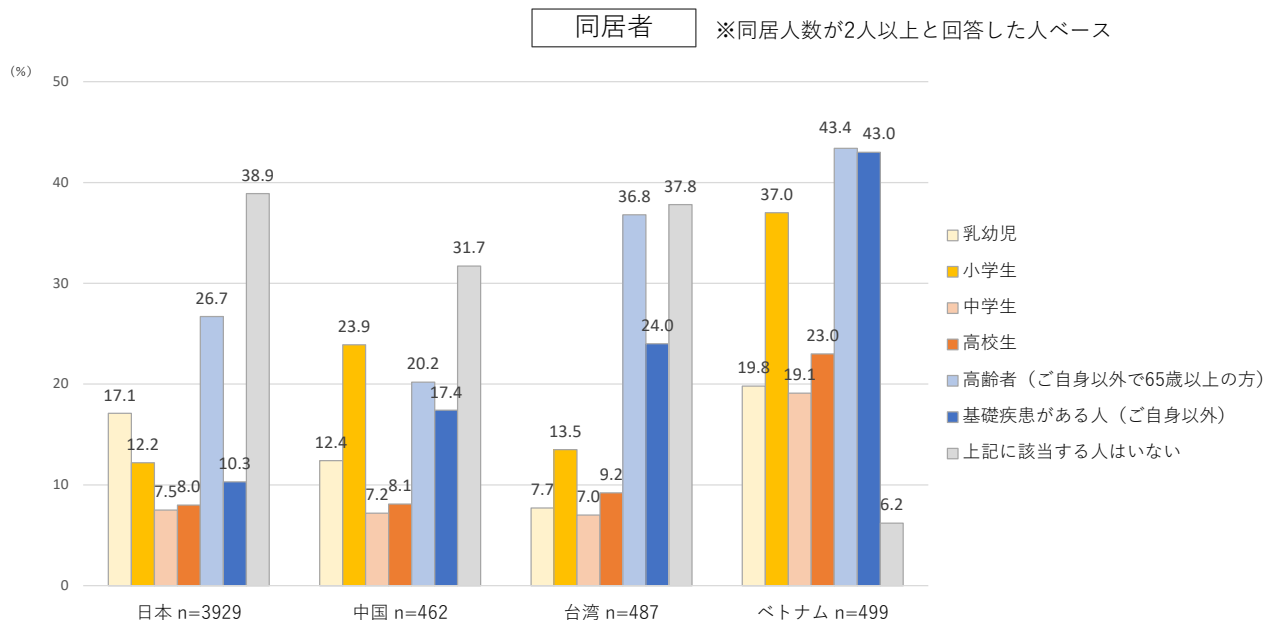
同居者は、ベトナムでは「高齢者」「基礎疾患がある人」とともに4割を超える。

日本では「高齢者」が26.7%で最も多い。

中国では「小学生」が23.9%で最も多く、台湾は「高齢者」が36.8%で最も多くなっている。

※「上記に該当する人はいない」を除くコメント

設問：ご自宅に、以下にあてはまる方は同居されていますか（あてはまるものすべて）



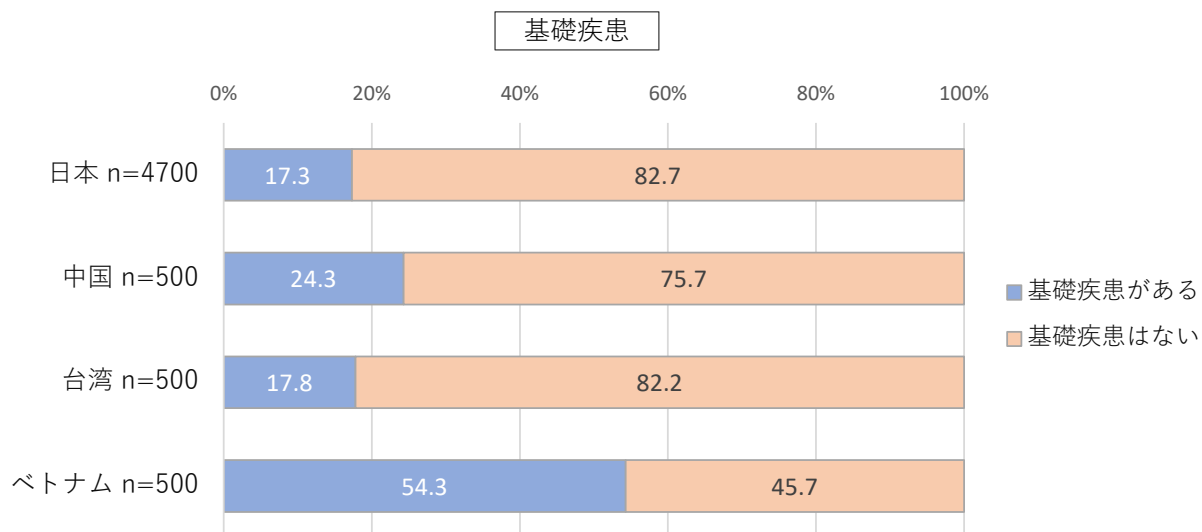
## 基礎疾患の有無

ベトナムでは「基礎疾患がある」が半数以上となり、日本は17.3%、中国は24.3%。台湾は17.8%となっている。

ベトナムは、50歳以上の基礎疾患比率が極めて高いため、全体の平均疾患率が高くなっている。

設問：あなたは、下記のような基礎疾患をお持ちですか。（回答は1つだけ）

※慢性の呼吸器疾患、心疾患、腎疾患、神経・筋疾患をはじめ、血液疾患、糖尿病・代謝性疾患、悪性腫瘍、間接リウマチ・膠原病、内分泌疾患、消化器疾患・肝疾患、HIV感染症など

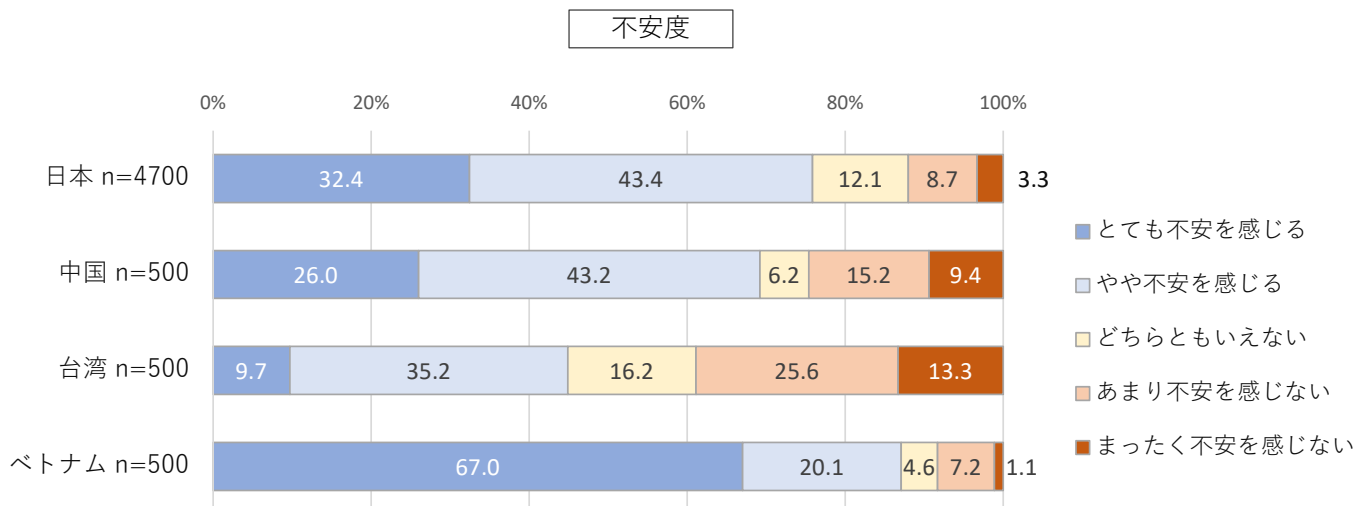


## 新型コロナウイルスに自身が感染することに対する不安

自分自身が新型コロナウイルスに感染することに対する不安についてみると、ベトナムでは「とても不安を感じる」の回答割合が67.0%と最も高く、日本は32.4%となっている。

台湾は「とても不安を感じる」が9.7%、「やや不安を感じる」が35.2%と他国と比べ不安と回答する割合が低い。

設問：あなたは、自分自身が新型コロナウイルスに感染することに、どの程度不安を感じますか（回答は1つだけ）



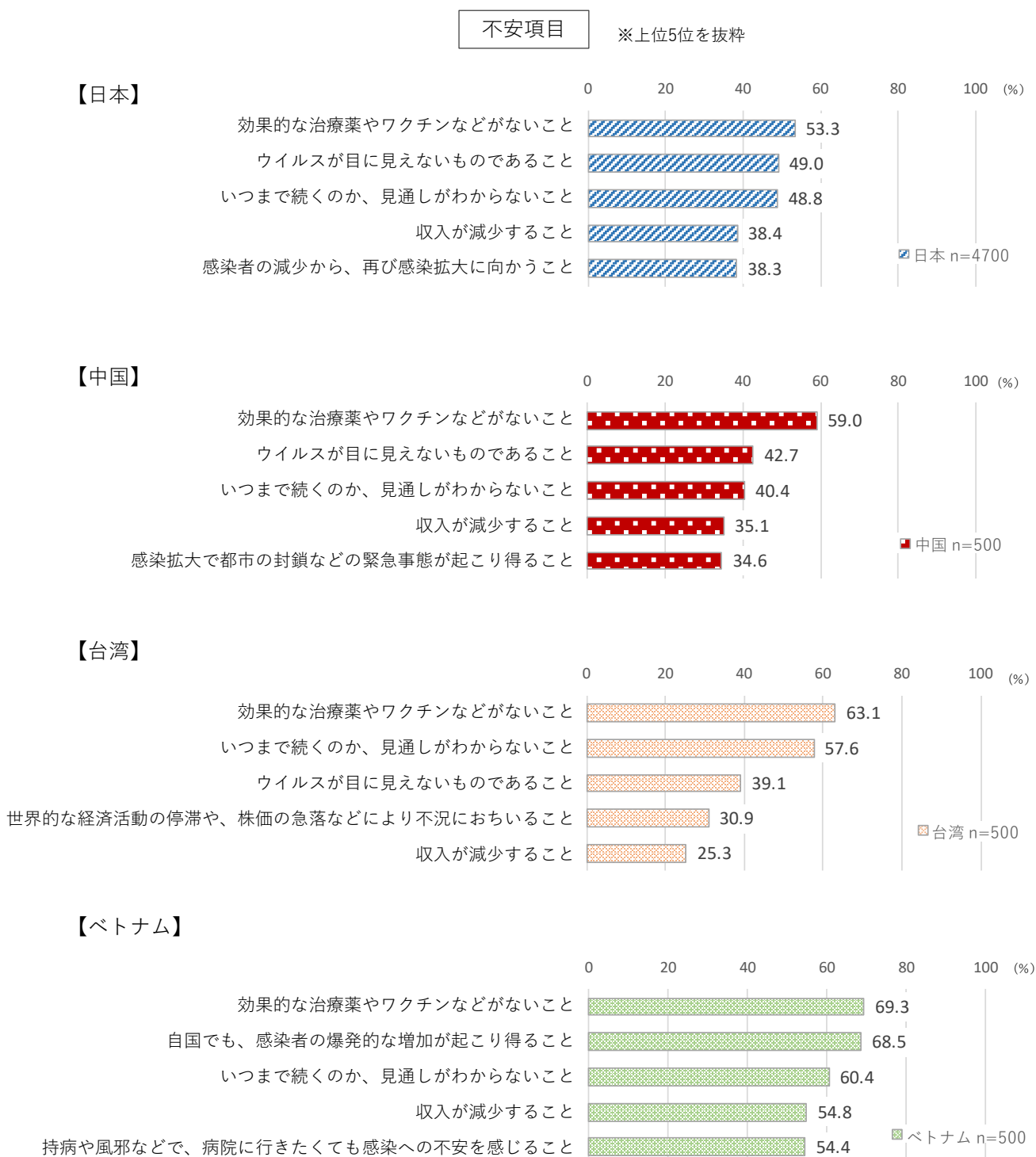


## 不安に思うこと

新型コロナウイルス感染症に対してどのように不安に感じているかについてみると、「効果的な治療薬やワクチンがないこと」の回答割合がすべての国で最も高く、「いつまで続くのか、見通しがわからないこと」の割合も高い。

ベトナムでは「自国でも感染者の爆発的な増加が起こり得ること」が68.5%で他国と比べ高い。ベトナム以外の国では「ウイルスが目に見えないものであること」の回答割合が高い。

設問：新型コロナウイルス感染症を知ってから、あなたが具体的に不安を感じていることはありますか。以下についてお答えください（あてはまるものすべて）



## 不安に思うこと（詳細）

## 不安項目 国別ランキング

	日本 n=4700	中国 n=500	台湾 n=500	ベトナム n=500
1位	効果的な治療薬やワクチンなどがないこと 53.3%	効果的な治療薬やワクチンなどがないこと 59.0%	効果的な治療薬やワクチンなどがないこと 63.1%	効果的な治療薬やワクチンなどがないこと 69.3%
2位	ウイルスが目に見えないものであること 49.0%	ウイルスが目に見えないものであること 42.7%	いつまで続くのか、見通しがわからないこと 57.6%	自国でも、感染者の爆発的な増加が起こり得ること 68.5%
3位	いつまで続くのか、見通しがわからないこと 48.8%	いつまで続くのか、見通しがわからないこと 40.0%	ウイルスが目に見えないものであること 39.1%	いつまで続くのか、見通しがわからないこと 60.4%
4位	収入が減少すること 38.4%	収入が減少すること 35.1%	世界的な経済活動の停滞や、株価の急落などにより不況におちいること 30.9%	収入が減少すること 54.8%
5位	感染者の減少から、再び感染拡大に向かうこと 38.3%	感染拡大で都市の封鎖などの緊急事態が起こり得ること 34.6%	収入が減少すること 25.3%	持病や風邪などで、病院に行きたくても感染への不安を感じることに 54.4%
6位	自国でも、感染者の爆発的な増加が起こり得ること 36.9%	持病や風邪などで、病院に行きたくても感染への不安を感じることに 28.6%	人々が自分勝手な行動を始めて、社会の秩序が保てなくなることに 18.6%	子どもの学習の遅れや進級・進学などへの影響 47.7%
7位	感染者が増えて病院などが対応能力を超えてしまうこと 36.3%	世界的な経済活動の停滞や、株価の急落などにより不況におちいることに 28.1%	企業などの収益が悪化すること 18.0%	企業などの求人や採用計画が減少すること 42.9%
8位	自分が感染したら、人から批判や差別をうけるかもしれないこと 35.7%	自国でも、感染者の爆発的な増加が起こり得ること 26.3%	持病や風邪などで、病院に行きたくても感染への不安を感じることに 17.0%	世界的な経済活動の停滞や、株価の急落などにより不況におちいることに 42.8%
9位	世界的な経済活動の停滞や、株価の急落などにより不況におちいることに 34.8%	感染者が増えて病院などが対応能力を超えてしまうこと 24.0%	仕事の抑制や解雇・雇止めを受けられること 16.9%	ウイルスが目に見えないものであることに 39.3%
10位	企業などの収益が悪化すること 34.3%	生活の変化による心身の健康の悪化 23.1%	感染者の減少から、再び感染拡大に向かうこと 16.2%	感染者が増えて病院などが対応能力を超えてしまうこと 39.1%
11位	自分が感染したら、自身の情報や行動内容が明らかにされること 33.8%	企業などの収益が悪化すること 21.6%	自国でも、感染者の爆発的な増加が起こり得ること 15.8%	生活の変化による心身の健康の悪化 37.0%
12位	検査（PCR 検査）を受けたくても受けられないこと 28.5%	自分が感染したら自身の情報や行動内容が明らかにされること、自分が感染したら人から批判や差別をうけるかもしれないこと 20.1%	自粛の緩和によって、電車やバスの混雑や人混みが避けられなくなることに 15.4%	企業などの収益が悪化すること 35.3%
13位	企業などの求人や採用計画が減少すること 28.3%	自分が感染したら人から批判や差別をうけるかもしれないこと 20.1%	自分が感染したら、人から批判や差別をうけるかもしれないこと 13.7%	仕事の抑制や解雇・雇止めを受けられること 33.0%
14位	人々が自分勝手な行動を始めて、社会の秩序が保てなくなることに 28.0%	感染者の減少から、再び感染拡大に向かうこと 19.4%	感染拡大で都市の封鎖などの緊急事態が起こり得ること 12.4%	感染拡大で都市の封鎖などの緊急事態が起こり得ること 24.6%
15位	感染拡大で都市の封鎖などの緊急事態が起こり得ること 27.7%	子どもの学習の遅れや進級・進学などへの影響 17.6%	生活の変化による心身の健康の悪化 11.0%	自分が感染したら、人から批判や差別をうけるかもしれないこと 23.4%
16位	仕事の抑制や解雇・雇止めを受けられること 26.1%	自粛の緩和によって、電車やバスの混雑や人混みが避けられなくなることに 14.4%	感染者が増えて病院などが対応能力を超えてしまうこと 10.9%	感染者の減少から、再び感染拡大に向かうこと 22.4%
17位	持病や風邪などで、病院に行きたくても感染への不安を感じることに 24.7%	検査（PCR 検査）を受けたくても受けられないこと 13.2%	企業などの求人や採用計画が減少すること 8.7%	人々が自分勝手な行動を始めて、社会の秩序が保てなくなることに 20.3%
18位	生活の変化による心身の健康の悪化 23.4%	人々が自分勝手な行動を始めて、社会の秩序が保てなくなることに 11.7%	子どもの学習の遅れや進級・進学などへの影響 5.9%	自粛の緩和によって、電車やバスの混雑や人混みが避けられなくなることに 13.6%
19位	自粛の緩和によって、電車やバスの混雑や人混みが避けられなくなることに 22.8%	企業などの求人や採用計画が減少すること 11.1%	自分が感染したら、自身の情報や行動内容が明らかにされることに 4.4%	検査（PCR 検査）を受けたくても受けられないこと 9.2%
20位	子どもの学習の遅れや進級・進学などへの影響 21.3%	仕事の抑制や解雇・雇止めを受けられること 10.4%	検査（PCR 検査）を受けたくても受けられないこと 1.7%	自分が感染したら、自身の情報や行動内容が明らかにされることに 5.2%
-	その他 -%	その他 2.0%	その他 1.0%	その他 -%
-	特に不安はない -%	特に不安はない 7.6%	特に不安はない 6.7%	特に不安はない 0.2%

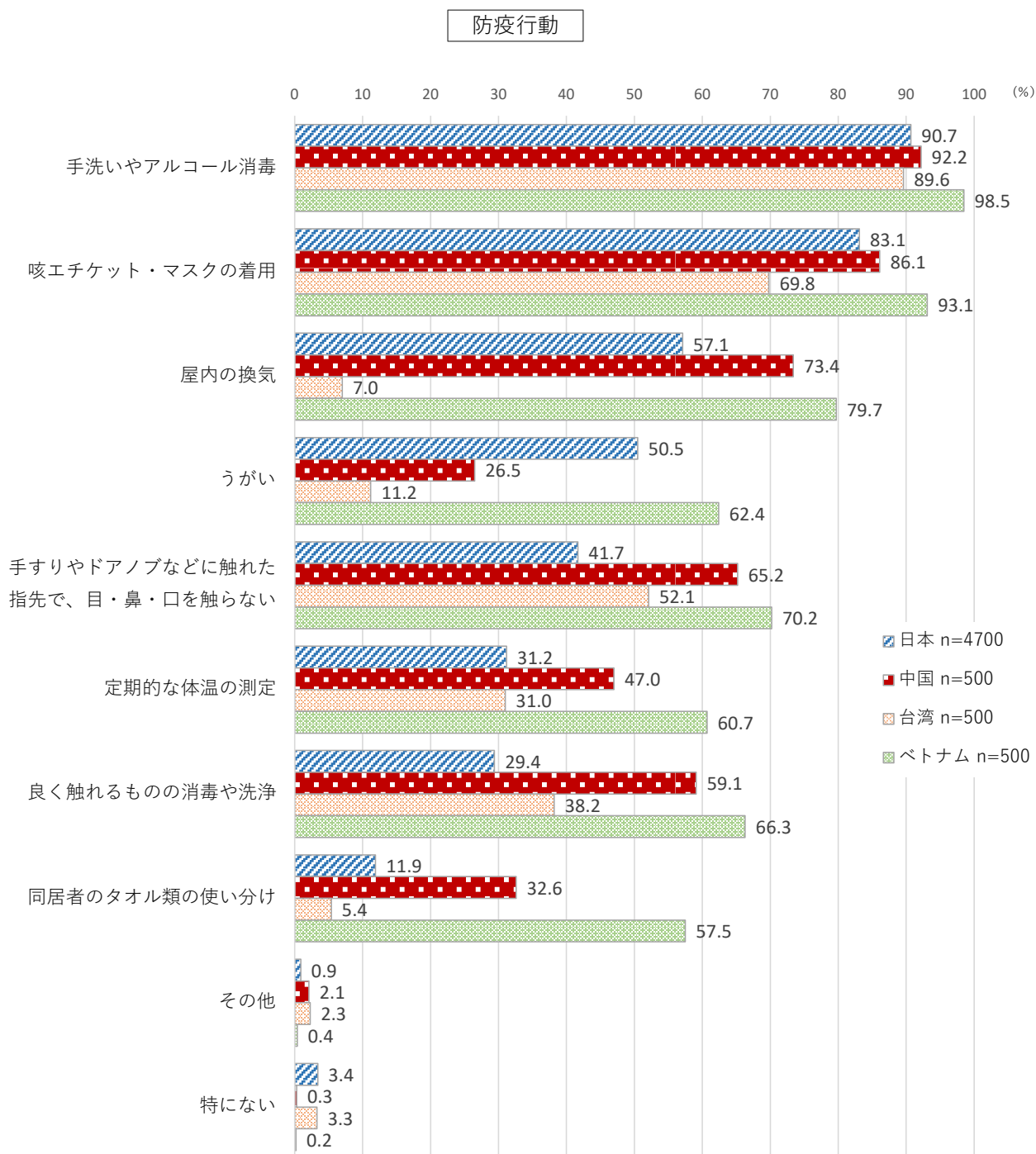
※色付け理由：いずれかの国で回答割合が上位3位に入っている項目

## 感染防止のために気を付けていること

感染防止のために気を付けていることは、「手洗いやアルコール消毒」の回答割合がすべての国で最も高い。次いで「咳エチケット・マスクの着用」となっている。

台湾は「屋内の換気」「うがい」「同居者のタオル類の使い分け」の回答割合が低い。

設問：あなたご自身が、感染防止のために、特に気をつけて行っていることは何ですか（あてはまるものすべて）

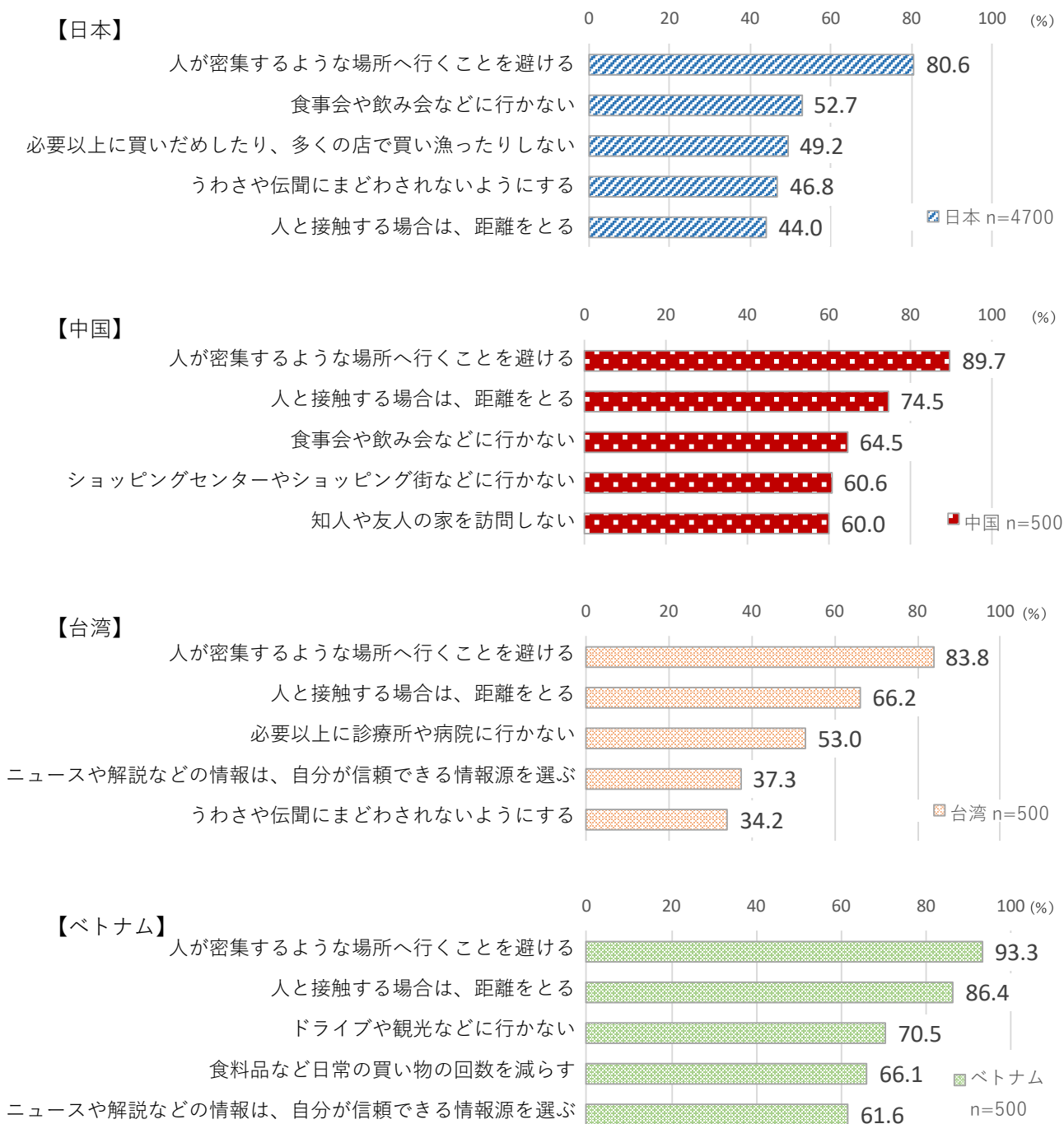


## 感染拡大を防ぐための行動

感染防止行動の他に、感染症の拡大などを防ぐために行っている行動は、すべての国で「人が密集するような場所へ行くことを避ける」の回答割合が最も高い。

設問：前問で示した感染防止の行動の他に、感染症の拡大などを防ぐために、あなたが行っていることは何ですか（あてはまるものすべて）

拡大防止行動 ※上位5位を抜粋



※このページの日本人のデータは、2020年4月3～6日時点の回答。

## 感染拡大を防ぐための行動（詳細）

## 拡大防止行動 国別ランキング

	日本 n=4700	中国 n=500	台湾 n=500	ベトナム n=500
1位	人が密集するような場所へ行くことを避ける 80.6%	人が密集するような場所へ行くことを避ける 89.7%	人が密集するような場所へ行くことを避ける 83.8%	人が密集するような場所へ行くことを避ける 93.3%
2位	食事会や飲み会などに行かない 52.7%	人と接触する場合は、距離をとる 74.5%	人と接触する場合は、距離をとる 66.2%	人と接触する場合は、距離をとる 86.4%
3位	必要以上に買いだめしたり、多くの店で買い漁ったりしない 49.2%	食事会や飲み会などに行かない 64.5%	必要以上に診療所や病院に行かない 53.0%	ドライブや観光などに行かない 70.5%
4位	うわさや伝聞にまどわされないようにする 46.8%	ショッピングセンターやショッピング街などに行かない 60.6%	ニュースや解説などの情報は、自分が信頼できる情報源を選ぶ 37.3%	食料品など日常の買い物の回数を減らす 66.1%
5位	人と接触する場合は、距離をとる 44.0%	知人や友人の家を訪問しない 60.0%	うわさや伝聞にまどわされないようにする 34.2%	ニュースや解説などの情報は、自分が信頼できる情報源を選ぶ 61.6%
6位	ニュースや解説などの情報は、自分が信頼できる情報源を選ぶ 41.6%	食料品など日常の買い物の回数を減らす 55.2%	食事会や飲み会などに行かない 32.3%	必要以上に診療所や病院に行かない 58.0%
7位	ショッピングセンターやショッピング街などに行かない 41.4%	スポーツジムやフィットネスなどに行かない 52.6%	感染症検査の趣旨や手続きを理解して対応する 27.4%	うわさや伝聞にまどわされないようにする 56.1%
8位	必要以上に診療所や病院に行かない 40.6%	必要以上に診療所や病院に行かない 47.3%	食料品など日常の買い物の回数を減らす 24.6%	仕事の仕方を変えて、外出や出張を減らす 53.5%
9位	ドライブや観光などに行かない 38.2%	仕事の仕方を変えて、外出や出張を減らす 46.2%	必要以上に買いだめしたり、多くの店で買い漁ったりしない 24.5%	スポーツジムやフィットネスなどに行かない 52.7%
10位	知人や友人の家を訪問しない 36.1%	ドライブや観光などに行かない 46.1%	仕事の仕方を変えて、外出や出張を減らす 24.3%	微熱があつたり、体調不良の際は会社を休む・外出をしない 51.7%
11位	食料品など日常の買い物の回数を減らす 35.8%	スポーツをしたり公園で遊ぶことをしない 38.9%	ショッピングセンターやショッピング街などに行かない 24.0%	食事会や飲み会などに行かない 50.4%
12位	スポーツジムやフィットネスなどに行かない 34.0%	ニュースや解説などの情報は、自分が信頼できる情報源を選ぶ 37.5%	スポーツジムやフィットネスなどに行かない 21.5%	ショッピングセンターやショッピング街などに行かない 49.4%
13位	微熱があつたり、体調不良の際は会社を休む・外出をしない 33.0%	感染症検査の趣旨や手続きを理解して対応する 37.1%	知人や友人の家を訪問しない 19.3%	必要以上に買いだめしたり、多くの店で買い漁ったりしない 40.2%
14位	感染症検査の趣旨や手続きを理解して対応する 25.1%	うわさや伝聞にまどわされないようにする 32.1%	微熱があつたり、体調不良の際は会社を休む・外出をしない 18.7%	感染症検査の趣旨や手続きを理解して対応する 38.9%
15位	会議や集会では、換気や風通しを良くする 21.0%	会議や集会では、換気や風通しを良くする 31.4%	ドライブや観光などに行かない 14.4%	スポーツをしたり公園で遊ぶことをしない 30.3%
16位	スポーツをしたり公園で遊ぶことをしない 19.3%	必要以上に買いだめしたり、多くの店で買い漁ったりしない 29.0%	会議や集会では、換気や風通しを良くする 14.0%	知人や友人の家を訪問しない 29.2%
17位	仕事の仕方を変えて、外出や出張を減らす 16.0%	微熱があつたり、体調不良の際は会社を休む・外出をしない 20.8%	スポーツをしたり公園で遊ぶことをしない 10.1%	会議や集会では、換気や風通しを良くする 21.1%
-	その他 0.3%	その他 -%	その他 -%	その他 -%
-	特になし 7.0%	特になし 0.4%	特になし 4.4%	特になし 1.7%

※色付け理由：いずれかの国で回答割合が上位3位に入っている項目

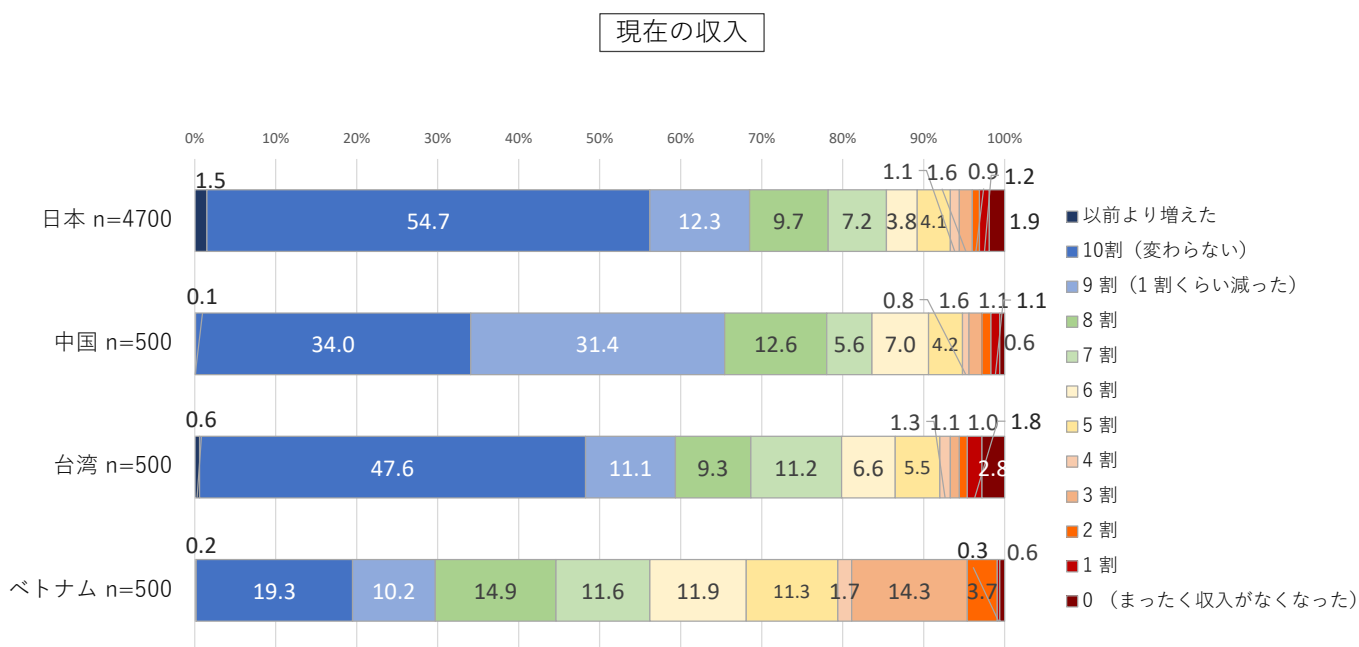
## 収入の変化

新型コロナウイルス感染症への対応が必要となる前の収入を10割とした場合、現在の世帯の収入は、日本が「以前より増えた」「変わらない」の回答割合が半数以上と他国と比べて比較的高い。

台湾も「変わらない」「10割」「9割」の回答割合が約6割となっているが、「1割」「まったく収入がなくなった」が4.6%と比較的高い。

ベトナムは収入が減っている世帯が80.5%、また、収入が半分以下になっている世帯が31.9%となっている。

設問：あなたの世帯では、収入はどのように変化しましたか。新型コロナウイルス感染症への対応が必要となる前を10割（100%）とした場合、現在は何のくらいになりますか（回答は1つだけ）



## 購入が増えた品目

新型コロナウイルス感染症への対応が必要となる前と比べて、特に増えた買い物は、日本では「食料品・飲料」で34.6%と最も多く、次いで「日用品」が28.6%となっている。中国では「日用品」が68.0%と最も多く、次いで「医薬品・通院費」が39.4%となっている。ベトナムでは「日用品」が71.7%と最も多く、次いで「出前」が62.5%となっている。

設問：あなたの世帯では、新型コロナウイルス感染症への対応が必要となる前と比べて、お買い物することが特に増えたものをお答えください。（あてはまるものすべて）

